

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和5年6月30日現在

### 今月の重点活動

#### ■有機農業 有機営農モデル実証ほの取組み

西濃地区有機農業推進プロジェクトチームでは、有機営農モデル実証ほ(水菜)の令和5年度1作目の有機栽培実証に取り組んでいる。

栽培期間中の害虫(アザミウマ類)の発生動向を確認したところ、有機実証ハウスでは、天井ビニールにUVカットフィルムを使用し、生物農薬主体の防除を行った結果、慣行ハウスと比べて大幅にアザミウマ類の発生を抑えることができた。また、雑草の発生も少なく、慣行栽培と同等の生育であることが確認できた。

6月22日には収穫物の試食調査を行った。水菜の食味についても慣行栽培と同等で、この時期の有機栽培が可能であることが実証できた。農林事務所では、引き続き秋冬作の実証に向け、チームの一員として支援していく。



【有機水菜ハウスの様子】

### 安全で身近な「西濃の食」づくり

#### ■小麦 小麦の収穫状況と、環境負荷低減技術の実証

西濃地域の各地で小麦の収穫が始まった。今春は春先からの高温のため、収穫も平年よりも若干早くなり、海津市では、イワイノダイチは5月26日から、さとのそらは6月2日からの収穫開始となった。梅雨入りが平年より早くなったため、収穫作業への影響が懸念されたが、順調に作業を進めることができた。品質・収量は、赤かび病の発生は少なく、イワイノダイチは豊作、さとのそらは、平年よりやや低収となる見込みである。

農林事務所では、JAにしみのと連携し管内全地域の営農組合等のほ場において「環境負荷の少ない施肥体系の確立」に向けた実証ほを設置している。

6月9日及び14日、県農業技術センターにおいて、実証ほの小麦の脱穀と調製作業を行った。今後品質調査等も行う予定で、実需者から求められている高品質な小麦生産に向けて生産技術を実証し普及を図る。



【小麦脱穀作業の様子】

#### ■大豆 大豆播種前研修会

管内大豆生産者を対象に、6月20日は養老町、6月26日は神戸町で、播種前研修会が開催された。研修会では、JAにしみの担当TACから前年の生育状況や収穫についての反省点が報告され、農林事務所からは播種に向けた注意点について説明を行った。

特に、養老地域においては、排水不良田が多いこと、難防除雑草ヒロハフウリンホオズキの発生が顕著であることが課題である。

播種時期が梅雨時期に重なるため適期作業が難しく、雨間を見ての作業となることで、対策を徹底するよう呼びかけた。

今後も、出芽確認、病虫害対策及び除草対策などを中心に栽培支援を行い、収量確保に努めていく。



【神戸町での研修会の様子】

## 西濃の農畜水産物のブランド展開

### ■夏秋ナス 土壌病害対策の支援

夏秋ナスでは連作による青枯病や半身萎凋病などの土壌病害の発生が問題となっており、農林事務所では対策の検討を行っている。

現在、土壌病害の常発ほ場では、土壌消毒や耐病性品種の導入、排水性の改善などの対策を実施し、効果を確認している。一方、すでに6月上旬に青枯病の発生が確認され課題も多い。

今後、気温の上昇に伴い青枯病が発生しやすい条件になってくる。栽培中の青枯病感染予防対策がまだ不十分なことから、農林事務所では、感染対策の普及に向けて、ナス栽培を支援していく。



【青枯病で萎れたナス】

### ■いちご 新品種導入に向けた視察研修

5月31日に養老町苺連絡協議会で視察研修が開催された。協議会では、「濃姫」「美濃娘」を長年栽培しているが、管理に手間がかかることから省力化できる品種を模索している。

そこで、今回導入・試作を検討している品種「恋みのり」を栽培している山県市の「体験農園みとか」を視察した。担当者から栽培特性や果実品質などについて説明を受けたのち、実際に食味等も確認した。

農林事務所では、収量・品質・省力性・需要ニーズ等、あらゆる可能性を想定しつつ、新品種導入に向け協議会の取組を支援していく。



【説明を聞く生産者】

### ■きゅうり 令和5年産栽培反省会開催

6月20日にJAにしみの海津中支店で海津胡瓜部会栽培反省会が生産者・関係者が参加し開催された。

はじめに種苗業者から、黄化症状の原因と対策等について情報提供をいただいた。

農林事務所からは、本年の気象状況、4月に実施した栽培アンケートの結果、燃油高騰対策支援事業について情報提供を行った。

本年は病害虫の発生は多くはなかったが、一部ほ場では初期からミナミキイロアザミウマが媒介する黄化えそ病が発生したり、4月下旬以降タバコナジラミが媒介する退緑黄化が増加するほ場が散見された。そのため害虫をハウス外に出さないための蒸込みや侵入対策等について、次作に向けて徹底するよう注意喚起した。

農林事務所では、引き続きウイルス病及び燃油高騰対策を支援し、きゅうり生産者の経営安定を図る。



【反省会の様子】

### ■みかん 南濃みかん部会総会の開催

6月15日、南濃みかん部会は、令和4年度通常総会を海津市南濃町のJAにしみの石津支店で開催した。コロナ禍の総会は紙面開催であったことから、会員を集めての開催は4年ぶりとなった。

総会の後、農林事務所から、みかんの病害虫対策について情報提供を行った。南濃みかん部会では、今年度、ドローンによる防除の省力化を進める予定で、農林事務所ではその効果確認などスマート農業推進の支援を行う。



【総会の様子】